

神 殿 講 話

174.4.21

今月 18 日には、全国各地からおちばがえりされた大勢の帰参者で賑わう中、教祖のご誕生祭が盛大につとめられました。翌 19 日には婦人会総会が行われ、ご婦人の皆様方には大変お疲れ様で、いやいやお勇み様でございました。

そして、今日は、ここ下市分教会の月次祭でございます。只今は、結構に花 4 月の月次祭を共々に陽気につとめさせて頂きまして、真にご同慶に存じます。

お話の当番でございますので、しばらくの間お付き合いくださいますようお願い申し上げます。

柏手

桜の花も盛りが過ぎました。私どもの教会から外の景色を眺めますと、あちこちで桜が咲いていました。桜八景ではなくて 5 ヲ所で見えますので「桜 5 景」です。こちらでピンクの塊が、あちらでは白い花のさくらの塊がという風に 5 ヲ所でその塊が見えました。朝づとめの前に遠くに金剛の山と、葛城山を見て、そして桜を眺めるのが私の好きな時間でもありました。しかし、先日の雨でもう我が家から見える桜はなくなりました。また来年の楽しみで

す。季節は春から少しずつ初夏へ移り、「目に青葉 山ほととぎす 初鯉」の新緑の季節となってきます。

話は変わりますが、私は、おぢばの祭典日は、真柱様の祭文奏上までには神殿に到着して、かぐらづとめと前半下りは、西礼拝場で、かんろだいから真西のところ、前から 4 本目の柱の近くで、参拝させて頂いていますが、もう何年も同じ場所でそこが私の参拝の定位置のようなものです。(笑)

今年のご誕生祭は例年に比べて西礼拝場での参拝者が少ないように感じましたがどうだったのでしょうか。そんな話を友人としていますと、今年は、関東北部と東北地方からの帰参が少なかったからではないかとのことでした。

例年ですと東北地方の教会はご誕生祭に団参を組んで大勢帰って来ているらしいです。しかし、3月11日に発生しました東日本大震災で未曾有の大災害となり、死者 12000 人、未だ発見されていない行方不明者もほぼ同数おられると報道されています。1ヶ月以上経った今でも、未だ手もつけられない悲惨な光景がテレビで映し出されています。今尚続く余震に震えながら避難所に身を置く被災者の方々。地震で全壊した家の前に立つ人、津波で流された家の跡で思い出の品を探している人たち。真に胸の痛む、涙の出る思いであります。被災された皆様には心からお見舞い申し上げます、月並みではありますが、一日も早く復興をお祈り申し上げます。

地震のあった当日、東北に住む専修科時代の仲間に電話を入れました。岩手県花巻市と、秋田県の友人です。どちらも電話が混線状態でつながりません。翌日もつながりません。3 日目のお昼に岩手の友人につながりました。「どや！」と聞きますと、ものすごく揺れたと。物は落ちたり倒れたりしたが、教会は大丈夫だったと。しかし、停電が続いてるのでご飯も炊けない。すぐに食べられるものを薄暗いスーパーやコンビニに並んで買っているとのことでした。ま、無事で良かったなあと言って電話を切りました。秋田の友人は、夕方に携帯の電話がつながりました。彼は、開口一番「生きてるぞ～」と叫びました。東北訛りがきつい奴だから「いぎてるぞ～」と言っていたのかな？そうか良かったなあ。秋田は被害は少ないと聞いているが、お前は大教会が八戸やからもしかして太平洋側にでも行ってたらと思ってなあと言いますと、彼は、地震後すぐに送った私からの安否確認のメールを今朝見たといいます。そして、心配してくれてありがと！と電話の向こうで東北訛りで何か言いながら泣いていました。高校、専修科と6年間一緒だった友達です。

また、高校時代の友人が大変や！と連絡が入りました。今や世界的に有名になった福島原発の近くに教会があります。放射能が漏れて20キロ圏内は避難指示が出て、30キロ圏内は自主避難をしています。彼の教会は、福島原発から7キロにあるそうで、地震当日は震度7で5分間揺れ続いたと語っていました。教会は全壊に近い半壊だったそうで、津波も後100メートル位のと

ころで止まったとのこと。3年前に神殿ふしんをしたばかりで今や見るも無残な姿になってしまったと語っています。家族は無事で、お目標さまは、福島原発30キロ圏内にある大教会に預かってもらって、家族は避難地で過ごしていましたが、今は、天理市がそんな被災者を受け入れるために、櫛本にある市営住宅を無償で提供してくれることになって、高校卒業後も天理市内に住み続けている友人たちが中心になり、生活に必要な物資を調達して彼らの家族を呼ぶことになったらしいです。それで今月7日夜に、新潟周りで天理へやってきました。で、私にも米でも何でもいいから持ってきてくれと連絡が入りました。友人は、身体が興奮して、頭が興奮してるのか？恐ろしかった地震を思い出し、今でも睡眠薬がないと眠れないと言っていました。

復興、復興と言っても、福島原発の問題が解消され、避難している人たちが我が家に戻ることができるのは、いつのことやら全くわかりません。まだまだ教会にも近づけない状態なんですから....。

さて、地震、大風、水つきは、親神様の「ざねん・りっぷく」であるといわれています。被災された人たちというのではなく、全人類に対する神の警鐘であるといわれています。いろんな悟りはできるでしょうが、「人間を創った親神様の思いがわかっていないやないか？」「親神様の子どもである人間が陽気ぐらしをする姿を見て神も共に楽しみたいと思って人間つくったのに、ち

よっと自分勝手と違うか？あかん、あかん。このままほっといたら益々人間の勝手な方に行ってしまう。神の思いと違うぞ！」そこで、全人類がはっと気づくような神の姿見せてやろうと地震と津波と原発で、よく考えてみい。となったのかもしれませんが。

私は、ごく単純に考えて、親神様のご守護で、親神様のからだであるこの世で生かされていることを感謝して、「人たすけたら わが身たすかる」と教えられていることをこの地震、津波、原発で、世界中の人々に「たすけあい」を急き込んでくださっていると思っています。そして、我ら天理教の信仰者は、原点に戻り、「親神様の十全のご守護」と「八つのほこり」をしっかりと心に治めることだと思っています。

以前、住み込んでくれていた男の人に、あんた修養科で「十柱の神様のご守護のときわけ知ってるか？」「なんですか？それ」「なんですかやあらへんがな。修養科で試験あったやろ」「あああ、思い出した。教典見ながら書いたわ」と。「くにとこたちのみことは、どんなご守護、どんなお働きをしてるか知ってるか？」「う～ん。男一の道具、違う、男一の働き、皮つなぎ！」と答えました。「違うがな、くにとこたちのみことさまは、人間身の内の眼うるおい、世界では水の守護の理やがな。ほんなら、くもよみのみことさまは？」「男一の道具、風の神様」「あほ、あんた、男一の道具からちょっと放れら

れへんか？」誰とはいいいませんが。谷口さんなんです。彼は私を笑わすために2年間も教会に住み込んでくれていました。今は、九州に帰って、産廃処理会社でズボンの裾を引きづりながら頑張っています。足が短いのか、ズボンが長いのか？どっちかわかりませんが...

天理教を信仰しているようぼくの方でもこの「親神様の十全のご守護」と「八つのほこり」を理解していない人が多いと思います。修養科を出たといっても修了してしばらく経つともうすっかり忘れてしまっている人が多いのです。ただ、漠然と信仰しているだけで「心」がそこにはないと思います。まずは、毎日、唱えるだけでもいいではありませんか？唱えるだけなら5分もあれば十分です。誰か時間を計ってみてください。一度読み上げてみます。眠い方はお休みタイムで結構です。

親神様の十全のご守護。

くにとこたちのみこと

人間身の内の眼うるおい、世界では水の守護の理。

をもたりのみこと

人間身の内のぬくみ、世界では火の守護の理。

くにさづちのみこと

人間身の内の女一の道具、皮つなぎ、世界では万つなぎの守護の理。

月よみのみこと

人間身の内の男一の道具、骨つっぱり、世界では万つぱりの
守護の理。

くもよみのみこと

人間身の内の飲み食い出入り、世界では水気上げ下げの守護の理。

かしこねのみこと

人間身の内の息吹き分け、世界では風の守護の理。

たいしよく天のみこと

出産の時、親と子の胎縁を切り、出直の時、息を引きとる世話、
世界では切ること一切の守護の理。

をふとのべのみこと

出産の時、親の胎内から子を引き出す世話、
世界では引き出し一切の守護の理。

いざなぎのみこと 男雛型・種の理。

いざなみのみこと 女雛型・苗代の理。

八つのほこりの説き分け（別席のお話）

をしい

をしいと申しますのは、心の働き、身の働きをおしみ、租税やかかり物を出しおしみ、国の為、人の為に、身分相当の務めを欠き、借りたるものを返

すをおしみ、汚き事を人にさして自分は樂をして暮らしたき心、凡て天理に叶わぬ出しおしみ、骨おしみの心遣いがほこりであります。お言葉に、

人のものかりたるならば理がいるで はやくへんさいれ糸をゆうなりとあります。

ほしい

ほしいと申しますは、心も尽くさず身も働かずして金銭を欲しがり、分を忘れて良きものを着たがり、よき物を食べたがり、女を見ては女をほしがり、男を見ては男を欲しがり、着物でもあるが上にも殊更選り好みしてほしがる心はよろしくありません。丁度咲いた花を折って生け花にする如く、一時は楽しめるなれ共暫くの間には花は散りて自然に枯れるようなものであります。何事も堪能の心を治めるが肝心であります。

にくい

にくいと申しますは、我身の為を思うて云うてくれる人を、却って悪く思うて、その人を憎み、養子を憎み、嫁を憎み、人の悪口を云うて誹(そし)り、笑い、その場で出来た罪を憎まず、人を憎むはほこりであります。

かわい

かわいとは、我身さえよくば他人はどうでもよい、我が子の愛に引かされ、食べ物着物の好き嫌いを云わし、うそを云う事迄教え、又、今日は雨降る、寒いと云うて学校を休まし、男の子も女の子も気儘に遊ばしておくのはよろしくありません。我が子の愛に引かされて悪しき行為も意見せず、我が身を

思うて人悪しく申しまするは埃であります。我が身、我が子が可愛ければ、人の身、人の子も可愛がらねばなりません。

うらみ

うらみとは、我が顔つぶれたとて人を恨み、我が望みを妨げたとて人を恨み、誰がどう云うたとて人を恨み、意趣にもち、銘々、知恵、力の足りぬ事や徳のない事を云わずして人を恨むはよろしくありません。お言葉に、

難儀するの心から わが身うらみであるほどに

とありますから、人を恨まず自分の身を恨むがよろしゅうございます。

はらだち

はらだちとは、腹の立つのは気儘からであります。楽過ぎるからであります。心が澄まぬからであります。人がわるい事を云うたとて腹を立て、誰がどうしたとて腹を立て、己が理を立て人の理がいらんから腹が立つのであります。これからは腹を立てず、理を立てるようにするがよろしい。短気、疝癪(かんしゃく)は我が身の徳を落とし、我が身の生命を失う事があります。

よく

よくとは、人の物を盗み、人の物を取り込み、人をだまして利をかすめ、人の目を盗んで升目・秤目・尺目をかすめ、女に迷い、男に狂い、色に耽(ふけ)るは色欲、人の物をただ我が身につけるは強欲、それ皆埃であります。

こうまん

こうまんとは、力が無いのに我が身高ぶり人を見下し、金持ちは金の権を

以て人をたたきつけ、主人は召使いにぼん／＼言い、役人は上めに媚び、下の方を苦しめ、己は偉い、己は賢いと思うから人を侮り、人を踏みつけにするのや、知らぬ事を知った顔して人を見下し、人の欠点をさがす、これが高慢の埃であります。お言葉に、

なににてもやまいとゆふてさらになし 心ちがいのみちがあるから

このみちはをしいほしいとかわいゝと よくとこふまんこれがほこりやとあります。

この八つの埃と云うものは、聞き様取り様によって間違ふものでありますから、よく聞き分けねばなりません。

この外に口先のきれいにして、真の心の汚い、うそとついでと二つの埃があります。よく慎まねばなりません。

この大震災で、被災者は真に大変な思いをされていると思います。家族を失い、家を失い、絶望の淵におられる方も多いと思います。しかし、やがては復興に向かって動き出して行くことでしょう。そのときに、今度は、親神様の思召しである陽気ぐらし社会を建設して行くためには、ご守護の解き分けと八つのほこりの解き分けが心に治まっていれば、ほこりをはらい、神に凭れて暮らす、神人和楽の陽気ぐらしに近づいていけると思います。

なにもこれは、今回被災された人だけではなくて、全人類がお互いの生き方を反省するチャンスを与えてくださったと捉えて前進することが大切だと思います。

以前、下市の前会長さんのお話の中に、こんなお話がありました。

「心ここに在らざれば、視れども見えず、聴けども聞こえず、食らえどもその味を知らず。此れを、身を修むるにはその心を正すに在り」というお話でした。心がここになかったら、見ていても目に入っていない。ただ見ているというだけ。人の話を聞いていても心がここになかったら聞こえていない。雑音です。食事をして心になかったらただ食べたというだけで、食材への感謝や作ってくれた人への感謝もない。「いかに心を正す」ことが大事かということです。そして、心を澄ます努力が肝心です。

私は、単純に、ようぼくの皆さんに、ただ最初は、唱えるだけでもいいから、「親神様の十全のご守護」と「八つのほこり」を毎日、唱え続けることから始めるといいと考えています。そうして、会長さん方が、機会あるごとに更に説明を加えてあげたらやがてはようぼくみんなが親神様の思い、思召しが「心」に治まる日が来ると思います。「埃を払い、親神様の教えを聞いて、心を澄ます」ことが信仰者の生活態度ではないかと思います。

来年の4月には、大教会の創立120年記念祭と6代会長さんの就任奉告祭がつとめられます。ちょうど1年後です。この二大慶事に向かって、そしてまた、今回の大きな世界的な大節を生かせるような成人をさせて頂けるように勇んでつとめさせて頂きたいと存じます。

少し、重い話になりましたが、最後まで、ご清聴くださりましてありがとうございました。

拍手。